

## 2013年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2013年度学校自己評価」を報告するものです。

- ① 自己評価は次の12領域（部署）ごとに実施した。
  - ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
  - ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）
  
- ② 評価法
  - ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
  - ・年度末に、実践内容について評価した。
  - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。
  
- ③ 改善・向上策
  - ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

## 中学1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学1年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「よく学び 良く生きよ」さらには「言葉、行動、愛、信頼、純粋さの点で人々の模範となりなさい」という目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	1. オリエンテーションキャンプ・学年集会・各クラスでのHR等で取り上げ、実践を促すとともに、啓発活動を行った。 2. 学年の掲示板や教室に掲示し、常に意識できるよう心がけた。	B	年度後半にかけて呼びかけの回数が少なくなった。頻繁に呼びかけを行い、1年を通して意識させるためにも話題にあげていく必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 教師間で常に情報を交換・相談し、相互に共通の理解を持って生徒指導にあたれるようにした。 2. クラスによって違いを出さず、学年全体として指導できるよう基準を決めた。	A	絶えず教師間で報告して話し合い、共通理解は十分にできた。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学習にきちんと取り組めるよう連絡帳を持たせた。 3. 朝礼前の5分を「学びのとき」として計算と漢字のドリル、読書などの学習に取り組んだ。 4. 各考査前に学習計画表を作成させ、計画的な学習の取り組みを考えさせた。 5. 各考査後に成績不振の生徒に対して追試、補習を実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 6. 全員受験の実力テストと希望者による実力テストを学期ごとに実施した。 7. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	B	「学びのとき」の学習は、各自しっかりと取り組んでいた。成績不振者には、定期考査ごとに追試や補習を実施することができた。宿題や課題の提出を徹底させる工夫が必要であった。希望者実力テストの参加を継続させるよう、今後も呼びかけが大切。
総合学習	中学校 3年間の総合学習のテーマを「社会とつながろう」とし、中学1年生では「社会を知る」というテーマで、以下の項目に取り組んだ。 1. マナーの学習 2. キャリアの学習 3. 地域の学習	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. 他者と協力して問題に取り組み、課題を達成する。 3. 自分が所属している社会の特色を学び、社会の一員としての自覚を持つ。	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さをプリントを使って学習した。 2. 中学1年生である自分自身を見つめ、学校生活の目標を立てるとともに、これからの学校生活でどのような人間関係を築いていくかを考えた。また、将来挑戦してみたい活動や就きたい職業などについて考えるきっかけとして、夏休みには身近な人への「お仕事インタビュー」を行い、2学期に各クラスで発表した。秋の校外学習では「海遊館アカデミー」の講演を聴き、さまざまな職業について情報を集めた。2学期後半には、合唱コンクールのためクラスで協力して聖歌の練習に励んだ。また、「お仕事インタビュー」の発表優秀者には、学年全体での発表の場を設けた。 3. 自分たちが住み、通学している関西という地域について知るために、学校や学年の行事で関西の各地を訪れたことを振り返った。また社会科の授業との連携で、お正月についての調べ学習を通して関西の伝統や文化を知った。	A	1. 小笠原流礼法の講習では、慣れない礼儀作法に苦労する姿が見られたが、皆、よく学んでいた。身近なマナーに関するプリント学習にも一生懸命取り組んでいた。 2. 「お仕事インタビュー」とその発表、「海遊館アカデミー」の事前事後学習、「合唱コンクール」など全てにおいて一生懸命取り組み、十分な成果をあげることができた。 3. 地域の学習に割く時間が十分でなく、また、マナーの学習やキャリアの学習との結びつけがうまくいかなかった。今後、中学1年生の総合学習にどのように組み込むか検討する必要がある。	
	行事	1. オリエンテーションキャンプ	1. 松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、	1. 友だち作りと先生との交流を図るため各種ゲームを行い、また多くの先生方	A	1. 入学前の生徒の不安を和らげることができるのは良

		<p>2. 夏のキャンプ</p> <p>3. 春の遠足 秋の校外学習 冬の校外学習</p>	<p>友人や教師との交流をはかる。</p> <p>2. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。</p> <p>3. 自然に親しみ、友人と交流を深める。校外学習では音楽鑑賞等を通じて教科で得た知識を深める。</p>	<p>の協力の下、その機会をつくった。</p> <p>2. 集団での規則正しい生活とルールを守ることの大切さを伝えた。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうよう、その機会を用意した。</p> <p>3. 春の遠足では摩耶山に登り、自然の中で友人とふれあう機会を持った。校外学習では海遊館、国立民族学博物館、兵庫県芸術文化センター(クラシック音楽鑑賞)、大阪市立科学館を訪れた。</p>	<p>い点だが、緊張感を無くしすぎないよう指導する必要がある。</p> <p>2. リーダーとの連絡を密にし生徒ができるだけ同じ質の経験ができるような工夫をする。</p> <p>3. 展示の見学等は受け身の学習になりがちなので、主体的に学べるよう、教科との連携を深めていく。</p>
--	--	---	---	--	---

## 中学2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学2年	学年の目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「人にやさしく」という目標設定し、常に心がけるようにさせる。	「標語」を廊下、教室に掲示した。	B	日常生活の中で、より意識させるような呼びかけがあると、更に効果的である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認をする。	1. 教師間の情報交換して、共通の理解を持ち生徒指導にあたるよう心がけた。 2. 保護者との連携を密にし、協力しながら指導にあたった。	B	さらに共通理解のもと指導をしていく必要がある。規定を遵守させるためには今後も根気強い指導が必要だと思われる。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。 「学習習慣をつける」というブロック目標を実践する。	1. 授業の準備や宿題、提出物など、すべきことをきちんと取り組めるように連絡帳を持たせた。 2. 「学びのとき」の朝礼前に読書やドリルなどの学習に取り組んだ。 3. 学習計画表を用いて、考査前の計画的な学習の取り組みを考えさせた。 4. 考査1週間前に考査対策として「放課後!!学習塾」を開塾した。 5. 成績不振の生徒に対しての追試、補習を考査ごとに実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 6. 学外の生徒の学習程度を意識できるよう希望者実力を学期ごとに実施。 7. 百人一首やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	B	それなりの意識づけはできたと思われる。 定着度合いは生徒によって差がある。学習習慣を定着させるのは難しいが、必要に応じた手法・指導を工夫、継続することで、それぞれの意欲を高め、学習習慣へとつなげていく必要がある。
総合学習	「いのち」の学習	「生」「死」「生き方」の3つのキーワードに基づいて「いのち」について深く考えさせる。	1学期は「生」2学期は「死」3学期は「生き方」をテーマに、生徒自身が「いのち」の大切さを考える時間を持った。市民救命士講習、ワークシート、講演会、DVD鑑賞、写真絵本の読聴など。	A	友人、教師、外部講演者、保護者などさまざまな人の考えを参考にしながら、生徒は自身の考えを導き出そうと熱心に取り組んだ。	
学年行事	1. 海洋キャンプ  2. 春の遠足、秋の校外学習	1. 協調性を育て、海洋スポーツの楽しさを知る。  2. 自然のすばらしさを知り、自然環境の大切さを学び、また歴史文化の知識を深める。	1. 四種目の海洋スポーツに取り組み、生活班を決め、食事清掃等の共同作業に取り組んだ。  2. 春の遠足は修法ヶ原、再度公園へ行った。秋の校外学習は、清水寺、京都水族館へ行った。	A	1. 海洋スポーツを通して、協力して作業することの大切さや難しさを熱心に学んだ。指導員の方への「あいさつ」など、礼儀面を日常的に指導していくことが必要である。 2. 中2としては適当なコースで、先頭と最後尾もさほど開きが出ることなく、到着できた。「清水寺」は修学旅行・遠足と大雨のため非常に混雑しており、じっくり見学しづらい環境であった。	

## 中学3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年目標	学年目標の徹底	1、中1からの継続目標として、「自他を大切にす る人であれ」を、中3 からの目標として「毎 日が勉強」を、常に心 がけるようにさせる。	1、標語を廊下の掲示板および教室に掲 示。 2、行事や学年集会等で目標を示し、生徒 への意識付けを行った。	B	継続目標に関しては、意識付け できたのではないか。中3から の目標については、意識にはあ るものの、さらに行動を促すべ く声掛けなり環境づくりなり が必要である。
	生活指導	指導方針の確認と指導 体制の推進	1、学校の規定を遵守させ る。 2、個々の生徒の様子を丁 寧に見守り、教師間で 情報を共有する。	1、年度初めに方針の確認をした。 2、朝礼や、月1回のクラス報告会を行い、 学年の教師間で常に情報を報告、共有 し合っ、共通の理解と指導ができる ようにした。 3、保護者との連絡を密にして、家庭の協 力も得ながら指導した。	A	随時クラスのこと、生徒のこと などを話題にし、共通理解をふ かめ、協力しながら指導に当た ることが出来た。規定を順守さ せるという面から言えば、まだ まだ根気強い指導が必要であ る。
	学習指導	学習意欲の向上と学力 の定着	1、教室移動を早くし、授 業準備を確実に行う。 なによりも授業を大切 にすることを徹底指導 する。 2、高校進学を前にした、 大切な準備期間である ことを生徒自身に自覚 させる。	1、休み時間や授業中の巡回を時々行い、 生徒に声かけを行った。また、個人面 談などにより、各自の学習状況を把握 し、指導を行った。 2、授業態度と宿題の提出状況などを把握 するため、「授業態度に関するアンケ ート」を、教科担当者全員に実施し、 現状を確認した。 3、定期考査以外に5教科の「実力テスト」 を、学期ごとに実施した。 4、学期ごとに「希望者実力テスト」を実 施した。 5、長期休暇ごとに英語・数学の応用講座 夏休みには理科の実験講座、冬休みに は星座観察合宿を実施した。 6、考査ごとに、朝の考査対策用ミニテ ストと放課後勉強会を、考査後追試や補 いの学習を行った。	A	高校受験がない中、意欲を高め るためにと、さまざまな取り組 みを行った。学習習慣の定着に は差があり、積極的に学習する 姿勢を身につけた生徒もいる 一方で、まだまだ自主的に学ぶ に至らない生徒も多い。 今後さまざまなアプロー チでの取り組みが、必要であ る。
	総合学習	平和学習	1、戦争体験者へのインタ ビーや事前学習などを 通して平和について考 える。 2、平和実現のために自分 ができることを考える。 3、高校進学を前に、進路 についての知識を得 て、これからの自分の 生き方を考える	1、1学期は、戦争に関する映画鑑賞や「戦 争体験を聴く会」を実施。 2、2学期は広島市の被爆体験者による「被 爆者講演会」や、戦争・平和を考える ための「ドキュメンタリーフィルム鑑 賞」を行った。クラスごとに「平和に ついて」自分が考えたことをまとめた 3、3学期は広島平和学習として原爆資料 館見学、碑めぐりを行った。 4、学習を通して考えたことをまとめ、代 表作を冊子にし、配布した。 5、3学期に「職業ガイダンス」を実施。 また「進路ライブ」として、高校3年 生の体験談を聴く会を持った。	A	生徒は真面目に、熱心に取り組 んだ。特に講演会やドキュメン タリーフィルム鑑賞、広島訪問 などを通して、被害者・加害者 両面からの戦争、平和について 自分なりの考えを持てたよう に思う。今後も、「高校生だか らこそ見えてくることがある」 こと考えると、学習の継続の必 要性を感じる。
	学年行事	スキー修学旅行	1、一生懸命取り組む心や 協力・助け合いの精神 を育てる。 2、雄大な自然を体験する。 3、寝食を共にし、友人の 新しい一面を見つけ、 思いやり・譲り合いの 心を育てる。	1、中学生生活の集大成として、自律の精神 で団体生活を行うよう声掛けをした。 2、スキーでは、インストラクターの指導 を厳守して、安全に、楽しく実習を行 うように指導した。 3、団体生活において、整理整頓やけじめ を付けた生活ができるように指導し た。	A	体調を大きく崩したり、大きな ケガがなかったのがよかった が、自分の体調を管理するとい う点においてはさらに指導し ていく必要はある。 スキーについては、プログラム を楽しめた生徒が多かった。
			遠足（5月）	自然に親しみ、友人と交流 を深める。	往路は、新神戸駅からトゥエンティークロ スを通り、森林植物園に行った。帰路は、 山田道を通り、神鉄・谷上駅で解散した。	B

## 高校1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「よく見る・よく聴く・よく考える」と副題としての「そして動きだそう」を、常に心がけるようにさせる。	1、クラスの面談や通信等により、その都度、生徒へ呼びかけを行った。 2、高校生として、自ら気づき、考え、話し合い、行動するよう、それぞれの場面において促した。	B	それなりの意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認をする。	1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2、保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。 3、遅刻の多い生徒に対して、保護者と共に、その原因と対策を話し合う機会を持ってもらおうと、注意文書を郵送し、返信してもらった。 4、教室の整理整頓を、常に生徒に呼びかけた。特に窓際へ私物を置くことについては粘り強く指導した。	A	ほぼ達成できた。 遅刻については、減少した生徒もいたが、継続指導が必要な生徒もいた。 窓際への私物の放置はほぼ無くなった。
	学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。  自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。 生徒同士が切磋琢磨して学習する雰囲気を作る。  英検取得を目的とした、土曜日午前中開講の、ECC英検対策講座に、英語特別クラスの2級取得者以外は、全員参加した。(その他の生徒は、希望制)  授業中、教師の指示・指導に従がい、自ら行動(学習)できるようにさせる。	1、個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。 2、長期休暇中の補習について、夏休みに国語・数学・英語、冬休みに英語と化学の補習を実施した。 3、2学期中間考査の終了後、「古典文法」についての補いの補習を対象者を絞って実施した。 4、「英語特別クラス」の取り組みとして、マリスタブラザーズ国際学校へ訪問し、交流した。また、オハイオ州立大来校・セントピーターズ高校来校時に、交流の場を設けた。韓国の信明高校来校の際には、カップケーキ作りを一緒にして交流を深めた。 5、夏休みに、希望者を募り、千刈キャンプ場を利用して1泊2日のイングリッシュキャンプを実施した。 6、早朝に勉強する「朝の学習」を呼びかけた。 7、3学期の始まりに際して、学年集会をLHRを使って開き、授業の大切さ、集中して受けるということについての再確認を行った。担当教員にも授業中の集中について気になる生徒は学年に報告してもらおうよう依頼し、学年指導が必要な生徒については、後日面談を行い、話し合うようにした。 8、来年度の校内予備校募集の呼びかけの一つとして、3学期早々に教育講演会(校内予備校仲介業者・外部講師)を実施した。 9、春休み、数学の補いの補習を実施した。	B	なかなか自主的に学習する態度を身につけさせることは難しかったが、各自が学習に対してしなければならないことを意識し、考えさせる事はできたように思う。
総合学習	進路学習	自分の適性を知り、将来の	1、高2のコースIの決定の前に大学入試	A	どの生徒も真面目に、熱心に取	

		<p>生き方を考え、進路を決定していくようにする。また、社会と関わる意識を持つきっかけ作りをする。</p>	<p>の説明などを行った。</p> <p>2、学問研究などをネットや資料を利用して調べた。</p> <p>3、夏休みに学問研究とオープンキャンパスに参加することを課題にした。</p> <p>4、年齢の近い教育実習生（現役大学生）から、実体験と今後の学校生活、進路学習の話をお聴きする機会があった。</p> <p>5、大学の先生による「模擬授業」を実施した。</p> <p>6、実際に働く卒業生から話を聴く「キャリアガイダンス」や、外部業者委託の「職業体験」を実施した。</p> <p>7、キャリア教育の一環として、バザーの行事と絡めて、その寄付先を考えることで社会を考えるきっかけとした。</p> <p>8、1年間の進路学習を振り返り、自分の感想や意見をまとめ「進路スピーチ」と題して、クラスで発表した。</p> <p>9、キャリア教育の一環として、かつて「Blue Earth」の活動に参加した卒業生を各クラス数名ずつ招き、今後、自分たちがどのように社会に関わっていけるかについて、それぞれのテーマに分かれて考える「Blue Earth塾」を開催した。各クラス代表がそれぞれの提案を全体発表した。</p>		<p>り組んだ。</p> <p>「キャリアガイダンス」では、1名の講演者が欠席となり、少し残念であった。</p> <p>大学の先生による「模擬授業」、外部委託の「職業体験」とともに、参加した生徒は、真剣な態度で授業に臨んでいた。各自、何かしら進路についての意識付けができたように思う。</p>
学年行事	平和学習（広島）	<p>中3からの平和学習のまとめをする。</p>	<p>1、原爆資料館の見学と、ガイドのお話を聴きながら碑めぐりをした。</p> <p>2、レポートを書き、優秀なものを冊子にまとめ発行する予定。</p>	A	<p>生徒は熱心に見学し、感想文についてもしっかりと書けていた。</p> <p>冊子の発行が遅れたことは反省である。</p>
	校外学習（奈良）	<p>世界遺産をめぐり、歴史に関心をもつ。</p> <p>友人との親交を深める。</p>	<p>1、台風が接近する雨天での実施となったが、生徒は大きく不満をもらさずことなく校外学習を楽しんでいた。</p> <p>2、各クラス、グループに分かれて見学、散策した。</p>	B	<p>雨天時の奈良の見学・散策は、バス内以外に雨を避けて待機できる場所が無い。校外学習のコースとしてはいいが、雨天時の対策については検討が必要である。</p>



				・2月末に高3生徒による進路ライブを実施した。		
学年行事	遠足（六甲山）			・六甲ケーブル前で集合し、カンツリーハウスまで歩き、昼食後有馬まで行く予定だった。	C	突然の雨で午後から有馬まで行くことを中止した。
	京都ツアー	受験生としての意識づけをする。		・3月に希望者が集まり京都の神社参拝をしたり、同志社大学のキャンパス巡りをしたりした。	B	
	学年レクリエーション	全員での協同作業をする。		・体育館のアリーナでヒノキでできた10000個のドミノを並べ、5連のSMSを描いた。	A	学年全体で協力して時間内に完成し、片付けることができた。

## 高校3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校3年	学年目標	学年の目標の理解と実践	学年の目標 「自分を信じて最後までやりきろう！」	・特に卒業後の進路を定め、進路実現に向けて、日々努力する。	B	生徒の目標を確認し、個々に応じた進路実現のプロセスを伝えることが必要である。
	生活指導	継続的指導	きちんとルールを守れるよう風紀面・マナー等粘り強く指導する。	・担任が中心となり、状況に応じて指導した。特に学校行事等の服装指導をした。	B	教師全員が粘り強く注意し、指導することが大切である。
	学習指導	進路の研究と決定	自分の適性や関心に合致した進路を見つけ、受験へ向けて準備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の学年集会で、保護者と共に進路ガイダンスを行う。</li> <li>・4月と7月と9月に進路調査を実施。</li> <li>・計3回の実力テストを4月、6月、9月に実施。その際に、数・理・社の科目を希望者にオプションとして実施。</li> <li>・5月に希望者対象の小論文テストを実施</li> <li>・1学期に各大学の入試担当者が来校し、校内入試説明会を実施した。</li> <li>・卒業生が進路アドバイザーとして来校し個人的な体験談を聞く機会を持った。</li> <li>・担任との進路に関する個人面談を実施</li> <li>・9月に具体的な進路説明会を実施。</li> <li>・夏休みに担任と生徒・保護者との三者面談を実施。</li> <li>・進路に関する情報を「進路ストーリー」で配布。</li> </ul>	A	<p>AO入試・指定校推薦・公募推薦・松蔭特別推薦・一般入試など入試形態が異なるため、個々に応じた進路指導が必要である。</p> <p>進路指導部との綿密な連携をしながら、担任も情報を整理し、的確な指導にあたる。</p> <p>いろんな場面を活用し、進路について意識させる機会が必要である。</p>
		受験指導	自分の進路実現のために受験に向けて準備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みと3学期に進学補習を実施</li> <li>・夏休みコースIで勉強合宿を実施</li> <li>・10月に希望者対象の5教科実力テストを実施。</li> <li>・5月に希望者対象の小論文テストを実施。</li> <li>・12月に外部受験対象者に講師を呼び、「受験に対する心構え」の講演を聴いた。</li> </ul>	A	進学補習はできる限り個々の学力や入試レベルに応じた指導ができるように努力する。
	総合学習	小論文を書く	自分でテーマを見つけ、2000字程度の小論文にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報検索（インターネット検索）ガイダンスを行う。</li> <li>・論文の書き方を学ばせる。</li> <li>・講演（2回）を聴き、テーマ決定の一助とする。</li> <li>・クラスごとに論文発表をする。</li> </ul>	B	<p>論文作成方法の定着を図る。</p> <p>学習成果を個々人に還元できるように努める。</p>
	行事	遠足	六甲山を登山し、神戸の自然に触れる。 友人との親交を深める。	・新神戸～布引ハーブ園を登山した。	A	より良いコースを検討する。 ※特にハーブ園での集合場所
		バザーでの社会貢献	バザーで自分たちにできる社会貢献を考え、実践する。	・学年としては、BDF（バイオエーゼル燃料）について取り組んだ。さらに、クラスごとで、「地産地消」「ゴミの減量」「ハーブサイズ設定」など社会貢献内容を決め、実践。	B	実践内容を宣伝できるよう工夫する。
		チャレプロへの参加	社会貢献を目的としたプログラムに基づき、体験学習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルーアースプロジェクトで、日常学習では体験できないプログラムを自主的に実践。</li> <li>・希望者に対して、体験型プログラムを実施</li> </ul>	A	過去の流れを踏まえて、内容を検討する。

## 教務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
教務部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語教室・定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れる。	A	定期考査後の補講・補習の拡充をおこなう。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導をおこなう。	英語・数学などでグレード別クラスを編成する。また、選択科目を設置して進路に応じた指導をおこなう。土曜日には、中学1年生の英会話教室、英検対策講座、高校2、3年生対象校内予備校を実施した。なお、英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座を必修とした。夏季休暇中に補習週間を前後期2回設定する。	B	グレード別クラスでは、成績により学期ごとの入れ替えを行い、効果をあげる。また、土曜日の各講座では、各学年に運営担当教員を置き、講師と協力して運営を円滑化する。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施する。また成績の定点観測を行い、課題を抽出する。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やTOEIC、漢字検定などを実施する。	A	実力考査実施後の学習指導を充実させる。学力の定点観測により抽出した課題を分析し、改善をはかる。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開する。高2の修学旅行、高1の広島平和学習、高3のチャレプロの挑戦など、校外でさまざまな体験・事前学習をする。	A	中学においてもキャリア教育の導入をはかる。そのために、保護者・卒業生・外部の人々の協力を求める。
研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修をおこなう。	教科ごとに新任教員に対する研修をおこなう。 授業公開等の研修について検討を開始する。	C	教科の研修について制度化をはかる。 外部研修会にも積極的に参加する。	
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事をおこない、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	1学期にニュージーランドのセント・ピーターズスクールから生徒を受け入れ、ホームステイなどを行う。夏休みに中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピーターズスクールへ短期語学留学を実施する。事前学習としてニュージーランドの歴史・文化学習を行う。2学期に留学団体を通してアメリカ人生徒を受け入れる。神戸マリスタ国際学校との相互訪問を行い、外国人学校での授業やクラブ活動を体験する。姉妹校である韓国・信明高校へ訪問では、授業参加、ホームステイなどを体験する。訪問前に韓国語、文化勉強会を行い、また3学期には信明高校の生徒を受け入れる。	A	2013年度の信明高校への派遣に向けて、韓国の言葉、文化の理解をさらに深める。 セント・ピーターズスクールへの派遣も引き続き行う。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2013年度を古典芸能鑑賞の年とし、「能楽(観世流シテ方)」を鑑賞。 2014年度は舞踊鑑賞の年となり、貞松・浜田バレエ団による「白鳥の湖(2・3・4幕)」の鑑賞を予定している。	A	年に一度の団体芸術鑑賞を設定・実施するだけでなく、中1の「わくわくオーケストラ」のように学外での鑑賞機会を利用し、また、芸術鑑賞に関するポスターを掲示し、生徒が様々な芸術に触れる機会を提供する。	
学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上のための学校行事として、体育祭・球技大会(年3回)・春の遠足(登山)・中2海洋キャンプ・中3スキー修学旅行・冬休みスキーキャンプを設定する。自主性向上のため、中1キャンプ2回・高1広島平和学習・高2九州修学旅行等を実施する。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定する。	A	定期考査・学校行事の配列を更により良い形になるように考える。修学旅行については、より教育効果を高めるために中学、高校ともに実施場所変更の検討をおこなう。	

## 生徒部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。	B	頭髪違反者は減少傾向である。今年度は高校3学年、学期に1回は各教室をまわり指導をした。次年度についてはもう少し機会を増やし指導していく方向で検討する。
		登下校のマナー	交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。	関係機関と連携し、登校指導の実施、及び補導活動(列車補導も含む)を定期的実施する。	B	街頭補導での指導した生徒数は減少している。マナーに関する苦情はあるものの、逆にお褒めの言葉をいただくこともあり、少しずつではあるが、登校指導、街頭補導、下校指導の成果が表れつつある。次年度も引き続きマナーについての指導を続けいく事が望ましい。
		紛失・盗難の撲滅	教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品(携帯電話や財布)は担任が預かる。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	紛失・盗難件数はそれほど多くないが、貴重品管理に関しては、徹底した指導が望まれる。移動教室時の教室の施錠は特に注意を必要とする。生徒だけに任せず校内巡回など徹底する必要もあり。
美化指導	校内美化・清掃の推進	トイレ・教室をきれいに使用するよう呼びかける。各クラスの毎日の清掃活動を徹底する。大掃除を実施する。	毎日の掃除に拭き掃除を取り入れる。黒板クリーナーの集じん袋の粉をゴミ袋に捨ててから水洗いする。大掃除の際、机・イスの脚についた毛玉を拭きとる。窓のさん・柵・傘たてなどの雑巾がけを徹底する。新しいトイレの掃除方法を指導し、きれいに保つようにする。	A	中学のロッカーの上や高校の廊下の窓のさん、傘立てなど雑巾がけのあとが見られ、きれいになってきたと思う。生徒も監督者も向上心を持って教室を掃除し、モップや掃除機など試していた。上がった土は掃いても舞うので上下[靴袋2つ]は検討する必要がある。	
		ゴミの分別の徹底とリサイクル活動の推進	ゴミの減量化を呼びかける。美化委員が中心となり、ペットボトルのリサイクル活動を行う。	できるだけゴミを持ち帰るよう呼びかける。燃えるゴミを捨てる時、小さくする。美化委員と教員がリサイクル活動を毎週、火曜日と金曜日に行う。	B	ゴミの減量化は、なかなかできていないと感じる。継続して呼びかける必要あり。ペットボトルの処理は順調に行われている。
生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	エコキャップ運動・あいさつ運動など、近年取り組み始めた活動の継続。校外清掃活動の回数の増加。校内緑化に取り組む。	B	各取り組みの実施は円滑になる一方、惰性になりつつある部分も見られた。生徒会役員内での意識の統一を図るための話し合いなどが必要である。校内緑化は議論までで実現にはいたらず、次年度に継続、実施を目指す。	
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。	体育祭運営をよりスムーズに行う。昨年の反省をもとに競技の見直しを行う。応援合戦を円滑に準備できるようにする。文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。その他の学校行事においても積極的に参加し、生徒会として生徒の自治能力を向上させる。	A	体育祭当日の運営はスムーズに行うことができた。分担した役割をチームで話しあい、そして全体で動けるようにしたい。文化祭は舞台・展示ともにさらなる内容の充実をはかりたい。生徒会による校内全体の演出にもまだ改良の余地がある。

	各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ゴミの分別を確実に行う。 生徒会関係冊子の充実に努める。	A	各委員会で生徒会役員との打ち合わせの回数を増やし、質を上げるよう努力した。
安全教育	防火管理体制の整備、自衛消防の徹底	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちとする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする(地震発生を想定した訓練を含める)。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	避難訓練は、非常時の集合場所と経路の確認の意味をより意識しておこないたい。地震対応の訓練も有意義にできた。火災報知機の操作が複雑だが、一斉放送で避難指示が優先。
	校内危機対応意識の向上	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	B	教員、生徒ともに生徒が被害にあわない為にも安全意識を確認する必要がある。
	交通安全の意識を高める。	全校生徒に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、自転車シュミレーターを使用した講習をおこなう(本田技研協力)。登下校時の交通安全意識を高める。	A	外部講師を招いての講習会は、緊張感もあってよかった。只、毎年同じ内容というわけにはいかないで、次年度は別の内容で考える。
	応急処置の啓発	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	毎年継続して万が一のときに備える。
性教育	生徒の実態に応じた性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学2年生と高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。 また、他学年での講演会の実施について検討を行う。	B	今年度は高校2年生の授業で保健がなかった。未習の内容もあったが、事前アンケートや講師の先生との打ち合わせにより、全く問題はなかった。 中高一貫として性教育の系統化を図ることができるよう、講師の先生とも内容を検討していく。

## 宗教部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	副校長や当番学年への事前連絡 聖書朗読者の名前を確認し、朗読箇所を知らせる作業が遅くなりがちだったが一応理解された。	A	良いお話しをしていただき、広くお話しを居ていただくことを課題とし一層広報に力を入れたい。
		オルガニスト当番	オルガニストを手配し、出来るだけ早くに聖歌番号を決定する。	少しずつ新しい聖歌集の曲も浸透してきているように思う。オルガンレッスン生希望者も増加し充実してきた。	A	今年とりれた新しい曲も、しだいに浸透するようになって歌ってくれているようだ。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝をよい状態で受けることが出来るよう工夫する	礼拝前に黙想を行い、オルガンの奏楽にも助けられ礼拝を始める雰囲気を作っていくことが出来てきている。	B	生徒に聖歌を歌わせ、礼拝へ積極的に参加できるように継続して行う。早めに講堂へ集合させ礼拝の準備をさせる。
	特別礼拝の実施	説教者選定	ふさわしい方を選定依頼	いろんな方面から説教者をお願いして有意義な話をしていただいた。	A	これからも多くの人脈を得られるよう努力を続ける。
		オルガニスト・聖歌隊手配	併せて聖歌の決定	各クラブやオルガニストの方からアプローチをかけてくださった。	B	各方面と連絡を密にとって、これからも継続したい。
		式次第作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文を作成	各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	よりいっそうの研鑽を続け、各方面へ広めて行きたい。
	宗教週間の諸行事実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	パンの販売や乳児院のお尻ふき作成など企画をし、総合学習での取り組みもあった。クリスマスの飾り作りも行った。	B	情報宣伝活動をより積極的に行って生徒に訴えかけ、さかんに参加するようすすめる。
	その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝、キャンドルサービスなどを行って、ずいぶん参加者も増えた。	B	普段の早朝礼拝などに、これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていきたい。
	各奉仕活動の実施	特別養護老人ホーム きしろ荘関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	年2回の喫茶サービス、クリスマスの飾り付けを企画した。関係クラブに協力を要請したり生徒に呼びかけた。	A	積極的に生徒会や有志生徒や茶道部の部員も参加してくれた。
体験学習の実施	真生乳児院関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	1, 2学期を中心に年2期(12回)の育児体験を企画。広く応募を呼びかけて参加を促した。	A	今年度も多くの生徒が参加希望をし、各々の参加日も定員をオーバーした。	
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の諸問題を的確に生徒に伝えることが出来るように留意する	生徒向け人権映画として『父と暮らせば』、『青い鳥』を鑑賞した。礼拝においても何度か解説とお話しを行い、生徒からも感想を集めた。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触である。今後も啓発を続けて行きたい。	
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行。事前に礼拝でも問題提起する機会を持った。	A	型どおりではなく、いろいろな意見を持つよう準備でき良好。これからも継続したい。	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことが出来るように考える	全員研修としての講演会が3年越しで実現。釈徹宗先生に「認知症高齢者に学ぶ人間学」のテーマで開いていただいた。	A	生徒と同時に教員の啓発活動も行っていくうえで問題に対する深い洞察力を養いたい。	
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教への興味関心を持たすことが出来るよう考える	神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画。また、教会の礼拝やバザーに参加、東日本大震災被災地へ、ボランティアに引率することも企画。	A	今年は参加者が限られていた。次年度も継続して行え、参加人数が増えるようにもっと呼びかけたい。	
啓発文書の発行	青谷編集発行	キリスト教に関連する意見や思いを幅広く収集編集していく	例年の編集方針に従い、原稿依頼し、発刊した。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう務めていきたい。	B	概ねスムーズに原稿が集まった。広く一般教職員からも原稿を集めたい。	
	各種文書発行	時に応じて様々な文章によって礼拝教を伝えていく	各行事の連絡を兼ねてチャペルニュースを年間計6回発行した。	B	行事の時だけでなく、毎月生徒に配布できるように定例化をめざす。	
	聖句の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を読ませる	月1回の発行を目標に作成するはずであったが教室掲示することができなかった	B	今後も理解しやすい聖句を選び、生徒に浸透させたい。	

	<p>関連諸団体との連携</p>	<p>献金・人的支援・その他</p>	<p>関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切なサポートを考えていく</p>	<p>今年には東日本大震災やフィリピンの台風30号による被災者、ワールドヴィジョンジャパンに献金し活動を行った。また、宮城県への震災ボランティアを行った。</p>	<p>A</p>	<p>必要とする所に献金、人的支援をこれからも続けて行ってきたい。特に東北へは継続支援が必要である。</p>
--	------------------	--------------------	--	---	----------	--

## 総務部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数の把握。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	教室の机などを定期的に点検し、早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていること（部活動・補修など）を把握する。	通常利用一覧表と、月ごとの「放課後教室利用一覧」を掲示し、各責任者に記入してもらった。	B	各責任者に書き込みの徹底を促す。 通常活動の一覧を作成し、記入を簡素化する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録で各部署の利用予定を掌握する。
		不良箇所の補修	施設管理職員との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようになった。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	A	定期的に、校内の見回りをする。修繕可能かどうかの見極めを適切にする。
	情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時行う。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。	A	ネットワークのセキュリティ面で問題がないか、日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。
	管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	B	定期的に在庫の点検をすることで、まとまった量を購入し、コストダウンを心がける
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫する。その他、ゴミの削減に努める。
	視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。 機材の貸し出し予約方法を改めた。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。 学校ICT機材導入の計画を立てる。
	広報	ホームページ（学校の広報）	分かりやすい内容に努める。定期的に更新する。	できるだけ早く更新した。情報を見やすくすることを心がけた。	A	リニューアルしたHPをより魅力あるものにしていくために、各学年や記録係との連携をさらにすすめる。 少ない操作で見ることができるよう改善する。
		ハンドブック（校内のルール・約束事の周知）	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成（訂正）を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。
		学校報（一年間の学校の記録）	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真や資料を積極的に活用する。
	資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。 資料リストの作成をした。	A	古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。
	総務・渉外	業者との連絡 依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者とは連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務職員と協同して仕事を円滑に進めるよう努める。
式典・学校行事		職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	A	設営作業がスムーズに行くように式典前の講堂使用について気を配る。	

		バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTAや同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。	B	リユース食器などにかかる諸費用の抑制に努める。 ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。
		緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	A	各学期にテストメールを配信する。 配信エラーとなる者に対しては、文書により再設定をお願いした。

## 進路指導部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導部	進路指導	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	中学段階での進路指導の修正。特に、中1は社会を知る機会を増やした。また、新カリキュラムに応じて、中3で職業体験を実施するなど、進学指導の時間を増やした	B	総合の時間の柔軟性のある使い方が不可欠。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。
		進学指導の充実	総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	新カリキュラムに応じて、高1総合での進路学習の時期を前倒しにした。指定校推薦用の推薦席次作成や、理科社会の実力考査の扱いなど、生徒に実力をつけさせるためのルール改正を行った	B	ルール改正を実践していく上で、その効果に注意も必要。
			進路状況について分析を行ない、進学指導に生かす。	実力考査における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。	B	定点観測の結果を積み重ねていくと共に、個々の指導の助けにつなげていくことが必要。
		キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1で職業体験を行ったが、生徒たちは興味関心を持って取り組んでいた。	B	職業体験は、中3に持っていく、次年度も継続したい。
			職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせずに、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	Blue Earth Project は今年も充実した内容を実施した。昨年、アナウンス不足で参加者が減ったことを踏まえ、入学前教育として実施。これを受けてこの活動に参加する機会になってよかったという意見が多かった。Blue Earth Project は、特色ある教育活動として、全国に広がっている。高1でもBlue Earth塾を設定し、社会貢献バザーを考え実施した。	B	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も充実を図るべく、生徒にアナウンスも必要。

## 入試広報室

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報室	生徒募集 関連事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売、制服試着コーナーを実施。低学年の方向きには、 図書館で在校生とのレクレーションを企画した。	A	ゆったり過ごしていただけたようで、よかった。制服試着は 抽選をしたが、なるべく多くの方に試着していただけるようにしたい。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	B	ご参加人数が減ってきている。 時間が長すぎるという指摘もあるので、内容、広報の仕方も含めて検討が必要。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を感じてもらおう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	本校スタッフの事前打ち合わせを十分行う。 ご参加の人数が減っているので、検討が必要。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、これまで個別相談を実施してきたが、 もっと学校生活を知っていただくために新しい企画で説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	A	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。
		日曜日の学校説明会	ふだんの学校説明会と違って、より身近な内容の説明会にする。	学年主任・クラス担任の教員、卒業生（大学生）、保護者の方から松蔭についてより身近な話を聞いていただいた。会場もアットホームな雰囲気を出すために図書館にした。	A	図書館の座席設定を変更し、昨年よりはスムーズにご案内できた。内容については、他の説明会よりも好評。
		出張ミニ説明会	今年度より実施。 遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に加古川、11月に三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	内容としてはよかったが、今年度からの実施で、広く知っていただくことができなかつたこともあり、ご参加の人数が少なかつた。 より多くの方に知っていただき、実施会場も増やしていきたい。
		校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また展示コーナーや資料コーナーを設けた。グループごとの施設見学も行った。 願書も受け付けた。	A	対応スタッフを増やし、比較的スムーズに対応できた。
		学外のブース式説明会	主に保護者からの本校への質問に効果的に答え、受験意欲を喚起する。	可能な限り各会に参加し、保護者の本校に対する疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。、 県下9女子校（小林聖心・神戸国際・神戸山手・親和・武庫川・百合・甲子園・園田・及び本校）による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。	B	保護者と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。特に女子教育セッションについては大幅な見直しが必要。
		学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で本校の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「神戸東地区4校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和）」を実施した。	A	特に他校との合同説明会では、本校の特色が際立つプレゼンテーションを目指し、誘引力を高める。 甲南女子も加わり、4校合同説明会になり、会場も変更した。

情報提供 関連事項	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	A	スムーズな対応・説明を心がける。また担当者がどのような質問にも対応できるようにする。
	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	本校の現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。別冊のデータ集を改定した。	A	データ集は見やすくなった、と好評。
	DVD など視聴覚物品	本校生徒の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	DVDに制服リニューアルの内容を取り上げたが、DVD完成後にリニューアル内容が変更になってしまった。
	中学受験雑誌記事など	本校教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	A	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌記事掲載など	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	本校の教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌広告・看板	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	新しく、神戸市バスの六甲道の時刻表に広告を掲載した。	A	積極的な広報を行う。
	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。また学校ニュースの掲載にも協力した。	B	総務部ホームページ係とのよりきめ細かい協力が必要。古い情報が残っていることがあった。
	ノベルティグッズ等	受験生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	今年度は新しいグッズは作成せず。	B	本校の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
	学外教育機関への広報	塾訪問（全教員）	塾とのパイプを強化すると共に、本校教員が中学受験の現状を知る機会とする。	新入生塾アンケートよりリストを作成し訪問を実施。1名につき1塾～2塾を担当した。	B
	塾訪問（入試広報担当）	大手・中堅塾を中心にパイプを深め、より多くの塾生に本校受験をすすめてもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
	塾対象説明会	本校の教育内容を説明し、小学生・保護者に本校入学を推薦してもらう。	塾の先生方はお忙しいため、6月と10月に2回実施し、ご都合のいい方にご参加していただけるようにした。	A	2014年度は入試制度の変更など確定後の実施になるため、9月に1回の実施を予定。
	模擬試験会場	受験生・保護者に対して本校をアピールする機会とする。	6月、10月に説明会を実施した。	A	より興味をもっていただける内容にしたい。

## 読書運動委員会

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2013年度は「再生」。</li> <li>テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。</li> <li>教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。</li> <li>生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。</li> <li>優秀作を図書館に展示。</li> </ul>	B	<p>熱心に取り組んだ生徒が多く見られる一方で、読書に興味を持ってない生徒もいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、教職員の協力をさらに求めたい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらに充実した推薦図書リストの作成。</li> <li>感想文の書き方の指導の充実。たとえば、読書運動冊子の活用法の検討。</li> </ul>
			読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。</li> <li>感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を表彰（11月アセンブリーで）。</li> <li>各学年の最優秀作品は、兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：特選1作品、入選2作品。高校：特選1作品、入選2作品。</li> <li>第44回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。</li> </ul>		
			ゴールドカード・プラチナカードの表彰。その他。	<ul style="list-style-type: none"> <li>この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得していて、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。1月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。</li> <li>中3、高3の卒業時、生徒個人に貸出記録を渡した。</li> </ul>	A	<p>たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。</p>
		生徒が図書館を有効に利用できるようにする。	総合学習等の調べ学習の際の利用。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。</li> <li>要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。</li> <li>図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用役に役立ててほしい。</li> <li>自習時間の利用にも対応した。</li> </ul>	B	<p>各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。</p>
		生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。		図書館利用のルール理解、遵守。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。</li> <li>日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。</li> </ul>	A

		広報等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、図書館クイズを掲載し、各種イベントの案内をした。</li> <li>・各種イベント（絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、クリスマリース作り、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー等）を企画し、実施した。</li> <li>・高3チャレンジプログラムの1つとして 司書体験活動をした。</li> <li>・ブックリサイクルの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はと時計」のますますの充実を目指す。</li> <li>・積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。</li> </ul>
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係による定期的な選書を行った。</li> <li>・書店へ出向いての選書（全教職員、教育実習生対象）を企画、実施した。</li> <li>・随時、リクエスト本についても審議した。</li> </ul>	B	幅広い選書を目指して、より多くの教職員からのリクエストを知る機会を増やす。